

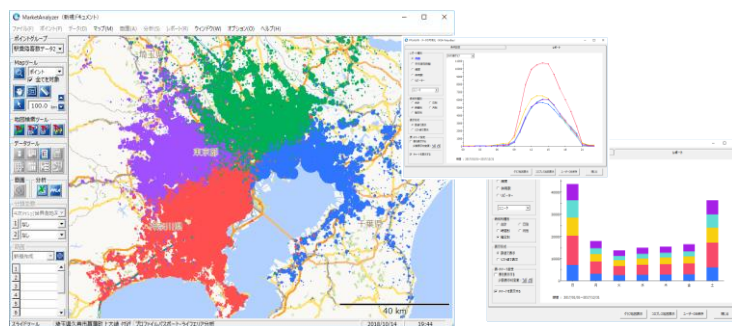
2019年11月吉日

報道関係者様 お客様各位

利用データの大容量化を見据えGISソリューションをさらに進化

GISでの広域分析やビッグデータ活用の需要拡大に応え 「MarketAnalyzer™」バージョンアップ版、2020年春リリース決定

技研商事インターナショナル株式会社（本社：愛知県名古屋市、代表取締役：小島 智海、以下「当社」）は、GIS(地図情報システム)で処理するデータの大容量化を受け、2020年春に向けて自社のGISパッケージ「MarketAnalyzer™（マーケットアナライザー）」のプラットフォームを強化することを決定いたしました。



MarketAnalyzer™ GPS位置情報ビッグデータ分析イメージ

■プラットフォーム強化の背景

GIS（地図情報システム）は、国内では過去より多くの企業に利用されています。従来は、国勢調査などの基礎的センサデータや自社の保有する店舗や顧客データを元にした分析が一般的でしたが、GPS位置情報をはじめとする「オルタナティブデータ（代替データ）」と呼ばれるビッグデータの利活用や、また自社保有データの大容量化が進み、分析手法も得られる知見も大きく進化しています。

【ビッグデータ×GISのビジネス活用イメージ】

- ・メーカー：顧客データや販売店データを地図上に可視化し、クラスター分析や類似店分析、予実分析に活用
- ・店舗：イベント会場への来場者の性・年代の分析をプロモーション効果測定に活用
- ・食品スーパー：自社店舗や競合店舗への来店者属性の分析を、新規出店に伴う周辺店舗や商圈への影響把握に活用
- ・百貨店：来館者分析を、店舗リニューアル後の効果測定に活用

数年に一度の調査となるセンサデータと比べ、GPS位置情報や顧客データをはじめとするビッグデータは、多岐にわたる情報を高頻度に入手できるようになるものの、データの容量が格段に大きくなるため、システムへの負荷も高くなりがちです。

そんな中、大容量データの活用ニーズが拡大している昨今の背景を踏まえ、来春へ向けて当社のGIS「MarketAnalyzer™」のプラットフォームを強化し、システムの操作環境のさらなる快適を支えます。

■MarketAnalyzer™ユーザー企業を対象に、新システムへの切替申込受付を開始

バージョンアップ版のシステムは、現システムに比べ下記のような活用シーンでのパフォーマンスを向上します。

- ▶全国チェーンの店舗分析に求められる複数の商圈データの同時作成
- ▶類似店検索や予実分析に求められる膨大な店舗データの一括分析
- ▶WiFiやGPS等、鮮度の高いビッグデータのエリアマーケティング活用 など

システムの詳細は、当社ホームページ（<https://www.giken.co.jp>）やメールマガジン（<https://www.giken.co.jp/magazine/>）等で随時進捗情報をご案内予定です。また、システムの切替はご希望されるユーザー企業様より順次行う予定となっておりますため、MarketAnalyzer™をご契約の企業様を対象に、新システムへの切替申込受付を2019年11月20日より開始いたします。

【切替申込方法】

当社ホームページのお問い合わせフォーム（<https://www.giken.co.jp/contact/>）より、お問い合わせ欄に「システム切替希望」と明記の上お申し込みいただくか、当社の担当営業までお問い合わせください。追って、担当営業よりご連絡差し上げます。

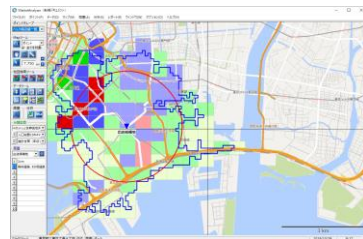
■ 技研商事インターナショナルが提供するエリアマーケティング分析ソリューション

本部・分析担当向け：探索的かつ高度な分析によりエリアの特性を知るハイグレードGIS

MarketAnalyzer™

高度で探索的な分析を可能とするエリアマーケティング・商圈分析専用のGISで、国内2,000社以上の導入実績があります。オンプレミス版やクラウド版など様々なラインナップを用意。エリアごとの居住者属性のクラスターを知ることができる「居住者プロファイリングデータ」を利用すれば、地図上に人口、世帯、消費、年収などの統計データを重ね、店舗商圈のマーケットボリュームやターゲット分布を瞬時に把握することができる等の特長があります。

▶製品webページ：<https://www.giken.co.jp/products/marketanalyzer/>

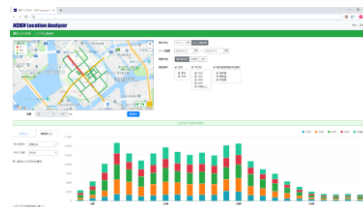


どこに、どんな人が、どれだけいるか：GPS位置情報からエリアの今を知る次世代クラウド型GIS

KDDI Location Analyzer

GPS位置情報ビッグデータ（※）および属性（性別・年齢層等）情報を搭載したクラウド型GIS（地図情報システム）です。当社とKDDI株式会社との協業によって生まれ、2019年6月より提供開始。店舗や施設、特定エリアの来訪者数や時間帯・平日日別傾向、来訪者属性などを分析することができます。多店舗展開のチェーン企業や消費財メーカー、商業開発のデベロッパーの商圈分析ツールとして導入が進んでいます。

▶製品webページ：<https://k-locationanalyzer.com/>



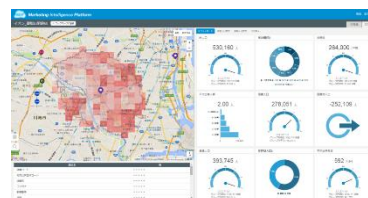
※位置情報ビッグデータとは、KDDIがauスマートフォンユーザー同意のもとで取得し、誰の情報であるかわからない形式に加工した位置情報データおよび属性情報（性別・年齢層）を指します。

店舗やSV担当向け：分析結果の共有&業務効率化に役立つ簡易操作のクラウド型GIS

Marketing Intelligence Platform

ビッグデータ活用が進み企業における「データ分析」の重要性が一層高まるなか、従来のエリアマーケティング分析ソリューションは膨大なデータを処理しながらも、情報共有を前提に開発設計されておらず、有益な情報が埋もれ、意思決定に十分生かされていませんでした。MIP（Marketing Intelligence Platform：マーケティングインテリジェンスプラットフォーム）は、リアル店舗の商圈データを一元管理・分析し、各階層・各部門での意思決定の最適化を支援します。

▶製品webページ：https://www.giken.co.jp/products/marketing_intelligence_platform/



そこにいる人の興味関心に分かる：エリアの色を知るサイコグラフィック分析データベース

AudienceOne® 統計データ for エリアマーケティング

AudienceOne® 統計データ for エリアマーケティングは、デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社（DAC）の、生活者の興味・関心を郵便番号界単位で分析できるデータベースです。月間4.8億ユニークブラウザと9,000万のモバイル広告ID、1兆レコード以上のインターネット閲覧履歴データと、独自アルゴリズムの居住地・勤務地判定技術を用い、エリアマーケティング用データとして開発しました。

▶製品webページ：<https://www.giken.co.jp/products/marketdiscovery/audienceone/>

チェーン店舗のことをよく知るデータマネジメントプラットフォーム

店舗DMP

店舗にフォーカスしたデータマネジメントプラットフォーム（DMP）。リアル店舗に関する情報を網羅的かつ豊富に提供し、店舗を軸とした分析、マーケティング、販促プランニングを支援します。これまで店舗に関する情報の準備段階で必要だった、属性項目やフォーマットが異なる3rdパーティータデータの導入、自社データとの組み合わせ、加工といった多くの労力からマーケターを解放します。

▶製品webページ：https://www.giken.co.jp/areamarketing/store_dmp/

会社概要

会社名：技研商事インターナショナル株式会社

代表者：代表取締役 小島 智海

所在地：愛知県名古屋市東区主税町2-30 GSIビル

設立：1976年1月

資本金：231,125,000円

事業：

- ・エリアマーケティングGIS（地図情報システム）の開発、販売、サポート
- ・センサス/市場データ及び各種業界向けデータベースの開発、販売
- ・マーケティング分析プラットフォームによる情報提供・共有・連携サービス
- ・中国市場のマーケティング指標及び商圈分析レポートの提供・連携サービス

URL：<https://www.giken.co.jp/>

<本件に関するお問い合わせ先>

技研商事インターナショナル株式会社 東京支店 担当：マーケティング部 市川（いちかわ）
東京都新宿区新宿2-1-12 PMO新宿御苑前 7F TEL：03-5362-3955 FAX：03-5362-3966
お問い合わせフォーム <https://www.giken.co.jp/contact/>